

イメージ豊かな読みを促す国語科授業についての一考察

——「花いっぱいになあれ」の実践記録分析を通して——

叶 井 晴 美

1 はじめに

私が、子どもたちが文章から登場人物の心情を読み取り、イメージ豊かに解釈するのに、登場人物になりきって物語の世界を身体を通して体感することが有効な手立てであると考えようになつたきっかけは、一九九五年に赴任した小規模校の実践（叶井、1998）である。三学期に地域の方をよんで、学習発表会をしていたのである。「かもとりごんべえ」を学習した後、劇で発表をすることを目標として九人の子どもたちと学習を進めた。すると、子どもたちは文章を何度も読み直し、このような動作でこのような気持ちではなかつたかと、みんで話し合いながらかもとりごんべえの心情や物語世界の様子を想像し読みが深まっていった。このことから、子どもたちが所謂「確認読み」から、「解釈読み」へ思考を深めながら読むために、動作化や劇化を通して登場人物になりきる体験が有効ではないかと考えた。

2 「花いっぱいになあれ」の先行実践について

「花いっぱいになあれ」の代表的な授業実践記録を検討する。西郷竹彦（1985）は、授業の中で、話者（語り手）の視覚によるイメージの違いを考えさせた。語り手がコンの内の目に入っていることを確認し、児童にお面をつけさせてコンに変身させ、コンの気持ちを考えさせ、コンのせりふを言わせる。コンが、はあっとため息をつくところを動作化させ、お面をはずさせ、もとの自分に変身させ、コンのことをどう思うか問う。児童の（つづきの感想）に、〈先生、あのね、ほくね。目をこすったときに（コンは目をこすりました、のときのコンになって動作化したときに「どうしてこすったの？」ときかれて）「おかしいな。」といったんだよ。だけど、ほんとうはねえ、びっくりしたのこころの中で、びっくりしたんだよ。〉と、動作化による同化体験の効果が見られる。動作化は補助的な方法であり、言葉で分かる力を育てることを基本としながら、低学年の場合、体で分らせる、体で表現させる動作化はふさわしい

方法であることを述べた。川野理夫（1983）は、授業の一次読みで、「さいでいたのだ」は発見の驚きである。目を大きく見ひろいておどろくコンの形象をよくわからせたい。」と、児童にコンの目の動作化をさせた。須田実（1986）は、入門期の授業技術として、子供にあきさせないようにする心掛けの必要性と、どのような方法でも子供の集中力の持続がむずかしいことを指摘。読む、話す、聞く、見る、動作をする、声を合わせて擬声語を繰り返させて言わせる、など、展開の変化をつくる技術が欲しいと述べた。同著の中で、八巻恒雄は、入門期の児童が興味を失わないように、さし絵や動作化等を加えて読み進めることの大切さを指摘。文からだけでは様子を想像することが難しい場合、動作化が有効な手法の一つであることは間違いないとし、人物の心情を捉えさせる際、動作化を行っておれば心情が容易に考えることができであろうという。必ず文章に帰り、どの文やどの語句を読むために、さし絵について話し合いをし、動作化を行っているのか、明確にすることが入門期以降の国語学習を無理なく進めるための学習の基盤をつくっていくことにつながる。しかし同著の、神宮イク江による授業実践の記録には、動作化についての記述は見当たらない。全国国語教育実践研究会（1998）の指導者四名による全授業記録には、指導方針の中に「語句を理解させるため、動作化を工夫する」とある。授業者の一人今枝弘子は、「トントン」の動作化で、「軽く、やさしくたたく」ということが理解でき、話し合いも活発になった」と述べた。「動作化はねらいをはっきりしておかないと、ことばから遊離して単なる遊びになってしまう。ただ、水をかけるのではなく、

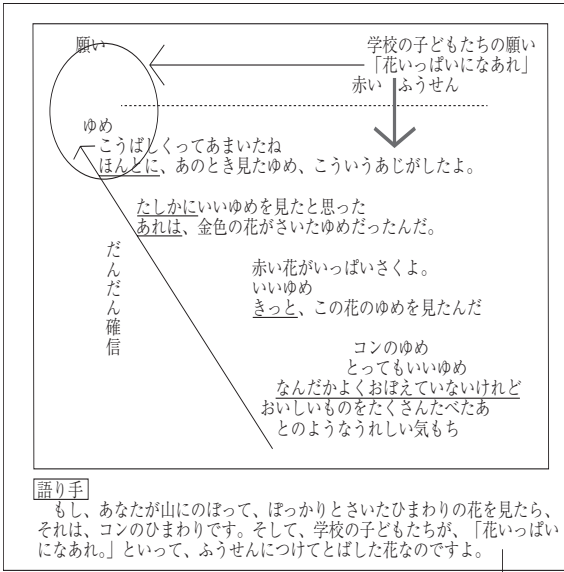
「ザー」と「チャパン」を比較させ、「チャパン」と言いながら動作化をさせた。語感と動作とうまく結びついて効果的である。」と指摘。稲本昭治（1989）も、指導のねらいの中で「動作化を取り入れる」とした。授業記録では、コンが目をごする、トントンたたく、おひげをひっぱる、にこにこするを動作化させた。「動作化を内容のあるものにするには、つねに文にもどって確認し、あいまいな動作をそのまましておかないようにすることが大事ではないか」と指摘。児童言語研究会（1991）による一読総合法授業実践集では、指導者沖山楨子の授業記録に、プリントへの書き込み、表現読みが見られるが、動作化は見あたらない。

これらの記述から、授業者は、授業に関する感想や反省を超えるものは見られない。授業者以外の人は、教材を指導するにあたって、低学年で動作化を用いることの有効性や意味づけが見られる。研究は、後者を指す。西郷竹彦は、動作化を通して、主に話者の視覚によるイメージの違いを指導している。動作化したあと子どもたち同士で意見を交流しながら、「コンの夢」についてのイメージを促す指導をする必要があるのではないだろうか。

3 作品の構造と視点

子ぎつねのコンは、赤い風船との出会いと別れ、不思議な芽の再生と金色の花による繁栄と食物の種という豊穡を得て自分の見たい夢の実現を実感する。子どもたちは、コンに同化することで、「夢の挫折―再生―繁栄―豊穡―夢の再認識」を体験する。赤い風船に

象徴されるように夢は鮮やかな赤色だけでなく、あつというまにパンと弾ける。しかし、壊れた夢は種（夢の為に努力したこと）を残す。努力して得た夢の種はゆっくり時間をかけて根を張りたくましく大きく育ち、繁栄と豊穡をもたらし、夢の実現のあり方について再認識する。短い話だが、子どもたちがこのような人生のエッセンスにちよつぱり触れる作品である。



入れ子構造と読者の立ち位置について

語り手

もし、あなたが山にのぼって、はっきりとさいたひまわりの花を見たら、それは、コンのひまわりです。そして、学校の子どもたちが、「花いっぱいになあれ。」といって、ふうせんにつけてとばした花なのです。

語り手と読者は、コンの夢がだんだん成就する様子を見ている。子どもたちの願いが、コンの夢と重なって成就することを知っている。この視点に立つと、学校の子どもたちとコンの夢を微笑ましく見る体験ができる。

4 目標と単元計画

(1) 目標

- ①物語を読んで、音読発表会をするという活動に興味を持って取り組むことができるようにする。

- ②人物の行動や会話に着目し、比較したり、繋げたり、動作化したりしながら場面の様子を想像したことが伝わるように、音読で発表することができる。

- ③場面の様子について、ことは手がかりに想像したことを「なりきり日記」に書くことができる。

(2) 単元計画

	第二次	第一次
4	3	2
3	2	1
2	1	1
1	1	1
3 場面	3 場面	1 学習の見通しをもつ。 ・物語を読み、心に残ったところをもとに感想をもつ。 ・「なりきり日記」に書いたことを手がかりに、音読発表会をすることに意欲をもつ。
ふうせんがしぼんでわあわあなくコン	水をやっておひげをひっぱってにこにこするコン	言葉を手がかりに動作化し想像を広げ、「なりきり日記」を書く。 1 場面 ふうせんに花のたねをつけてとばす学校の子どもたち ふわふわとんでいくふうせん 山の中へ下りていくまっかなふうせん 下りてきたふうせんといひゆめから目覚めるコン ふうせんを花とまちがえるコン ふうせんの花のねをあなにうめるコン 青いコップをもってくるコン

5 授業の実際

第三次				
9	8	7	6	5
「なりきり日記」などを手がかりに、音読発表会をし、感想を交流する。		<p>4場面 まっ赤な花がさいていたあとに、めをみつけたコン コンをおいこーばいのはいはいものびるめをみるコン 金色の花を見て、「ほう。」とさけぶコン</p> <p>5場面 金色の花がさいたゆめだったと喜ぶコン ひまわりのたねを食べて夢の味に満足するコン</p> <p>6場面 コンと学校の子どもたちとひまわりの繋がりを話す語り手</p>		

(1) イメージ豊かな読みを促すことが出来た場面

① 第二次二場面 空から下りてきた風船と、いい夢から目覚めた

コンとの出会い

T では、やってみましょう。隣のひとどちらかが風船になって、どちらかが子ぎつねのコンになってやってみます。その時にね風船の人は椅子の上からどんどん下りてきてください。

C はい。

T じゃあ、じゃんけんをして、役を決めたら、子ぎつねのコンは昼寝をしてください。

C それぞれ、じゃんけんをはじめます。じゃんけんをして、風船とコンになる。(写真1)

T 音読する。「まっかなふうせんは、しずかに、ふわふわ下りました。山の中の、小さなのはらに下りました。下りたところに、小さなきつねの子が、ひるねをしていました。子ぎつねのコンでし

た。」

C 風船役は、椅子の上からゆつくり下りてくる。コン役は椅子の下の方に丸まって寝ている。

C 風船役は、コンの子の目の前に顔を持つてくる。コンの子が目を開けると、お互いの顔の近さに、びっくりしたり、笑ったりしている。(交替してやる)

T 風船になって、どんなことが分かりましたか。

C コンがだんだん大きく見えてきて、最後はとっても顔が近づいて、○○くんが目を覚ましたら、ほんとに近くて目と目があいました。

T 空の高いところから、小さな野原へ下りて、さらにコンのところを下りてきたんですね。その時、だんだんコンが大きく見えてきたんですね。クローズアップといいます。

T コンになってどんなことが、分かりましたか。

C ○○君が、そっと下りてきて、目を開けたら、真ん前に顔が見えてびっくりしました。そして、可笑しくなって笑ってしまいました。

T あちこちで、笑い声や驚く声が聞こえました。びっくりしたけど、楽しそうでしたね。

C うーん。楽しかった。

○引き続き、「ふうせんを花とまちがえるコン」「ふうせんの花のね



(写真1) 風船になる子が椅子の上に乗って準備、コンになる子は下に丸くなる様子

をあなにうめるコン」「青いコップをもってくるコン」「水をやっておひげをひっぱってここにこするコン」の動作化を行った。その後、学校の子どもたちの夢とコンの夢との関係、コンの夢の内容について話し合う。

T 学校の子どもたちの願いは、何だったかな。教科書をもういっぺん見て読んで見よう。

C 「お花をうえましょう。お花をいっばい咲かせましょう。」「花いっばいになあれ」

T みんなは、書いていたんだけど、世界中、町中、村中に花いっぱいになあれという子どもたちの願いでしたね。(黒板の最初に板書) この願いは風船を飛ばしたら、終わったのかなあ。

C ううん。続いている。

T じゃあ、ずっと続いているんだね。(板書の上に線を書く)

T じゃあ、コンの夢はどうなったのかな。ここでは、コンはどんな夢を見ていたのかな。

C 子ぎつねのコンはとってもいいゆめを見ていました。なんだかよくおぼえていないけれど、おいしいものをたくさんたべたあとのような、うれしい気もちで目をあげました。

T このとき、コンの夢は、はっきりしているのかなあ。どういう風に見えているのな。立って隣の人に自分の考えを言った人は座りましょう。

C ペアで話す。

おいしいゆめ・・・(それぞれ話す)

T 意見を聞いてみましょう。

C おいしいゆめが見えています。

T それは、コンに、はっきり見えていたの？

C うん。

C 意見があります。なんだかよくおぼえていないけれどいっているの、おいしいゆめだけど、はっきりは見えていなかったと思います。

T はっきりしていない夢ってどう見えているのか、誰か絵に描いてもらえませんか。

C 二人が書く。(写真2)

M児 こんな風に遠くにぼーと見えているんだと思います。

N児 遠くに小さいけしきが見えているんだと思います。

T どんな景色だろうね。

P児 ぼんやりしたけしき。(ぼんやりした絵を描く。)

K児 (点点をたくさん書く) こんなに、小さい点のように見えているんだと思います。

T じゃあ、みんなは、どの人の絵に近いですか。描いてくれた人の絵を見ると、遠くに小さい点点のように見えているのと、ぼんやり霧のようにかすんで見えている絵がありますが、どちらかに手を挙げてください。

C ぼんやり見えている方にほとんどの子が手を挙げる。



(写真2) コンに見えている夢のイメージを絵で描く子どもたち

T じゃあここは、ぼやーと見えているんですね。(ぼやーとした絵を描く)

T じゃあ、ここは？板書の最後の部分を指して、(ぼくなんだかい夢見たと思ったけど...) コンの夢はどんな風に見えているんでしょう。

C 野原中に風船の花がいつぱい咲いているのが見えている。

C そう。あははは。

T こんなふうには、赤い風船がいつぱい咲いているんですね。(絵に描く)

C ふうせん割れないかな。

C パンパン割れそうじゃね。

C あははは。

T コンのゆめは、最初、目が覚めた時より、はつきりしてきたと思う人。

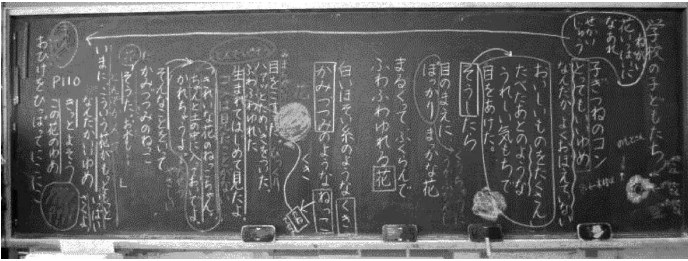
C はい。(全員)

T みんなが笑うように、可笑しいね。でも、コンは、大まじめよね。なぜかなあ。

C 子ぎつねのコンは風船を見たことがないから。

T そうだったね。見たこともない花だと信じているんだよね。

(板書①)



学校の子どもたちの夢とコンの夢の関係を示す

T 夢や願っただけ見てみましょう。学校の子どもたちの花いつぱいになあれの願いは続いているよね。

C うん。

T もう叶ったのかな。

C まだ。

T コンは、初めはぼやーとした夢だったけど、ここできつと赤い風船が野原いつぱい咲く夢だったと思っっているんですね。

C あはは。

T さあ、子どもたちの夢とコンの夢は一緒になったのかなあ。

C まだなっていない。(板書②)

② 第二次三場面 ふうせんがしばんでわあわあなくコン

T じゃあ、先生がそこを読むから、風船になってやってみてね。

赤い花は小さく...

C 動作化する。くたんと、椅子に倒れ込む子、床に倒れ込む子。

友達に、こうやらんやあと言う子。

T じゃあ、コンが見ていたのは、少しづつ小さくなる場所ですか。それとも、くたんと倒れた今ですか。

C 今。

T わかりました、起き上がって座ってください

C 座る。

M児 風船になりきってふわふわつと言い、動作しながら座る。

T じゃあ、コンになってびよんびよん跳



コンは、びよんびよん跳ねて

ねてきました、どうなった？

C コンになる。うれしそうにびよんびよん跳ねて、両手で目の所をおおって、「わーん」と泣き出す（ほとんどの子が）えーん、えーん。

C 分かったから、もう静かにしようよ。

(いつまでも泣いている子に声をかける)

T だれか、前でやってみてくれる？

C I 児風船 O 児コン

(くたんと倒れている風船に、向かってびよんびよん跳ねてきたO 児コンは、I 児風船を見つけて立ち止まって、両手を広げてあつと驚く動作をした後、両手で目をこすって、えーんとなく。)

C I 児風船 R 児コン

(R 児コンは、風船を見てすぐ泣く。)

T R さんのコンと、O さんの違いは何だろう。

C O さんは、ぱつと手をひろげた。

T O さんは何で、ぱつと手を広げたんだろうね。

C はい。はい。(たくさんの子が挙手。)

C びっくりしたからです。

T 何でびっくりしたの？

M 児 だって、きのうは丸くってふくらんでいたのに、しぼんでいたからです。

P 児 元気に咲いているかと思ったら、くたんとなって死んでいたからです。

S 児 えっとね。最初はね。せっかくね、さいとったけどね。小さ

くね、壊れてからね、それからね、風船の空気がね、ちよつとね、すきまがね、あいてもれたの。

T そうだね。それを見て、岡村さんが、あつとしたのはどんな気持ちだったのかな。

P 児 それはね、シヨックだったからよ。みなさんどうですか。

T ああー

T 何がシヨックじゃったん。N 君。

N 児 風船がくたんと倒れていたからです。

T 児 いっぱい赤い風船の花が咲く夢を見ていたのに、ダメになつたからです。

T 小さく小さくしぼんだと言うところも。う一度やってみてくださいさい。

C 両手で大きい丸をつくっていたのを、小さく小さくしていきながら、手を下ろす。

T くたんとはどういうふうにやる？

C 身体を机にぐにゃつとしながら、倒れる動作。

C 一人、ピシツと言いながら倒れる。

T 今、ピシツって言うのが聞こえたけれどそんな感じ？

C ううん。と言って、多くの子がぐにゃつとする。

T じゃあ、片手でやってみて。

C 伸ばした片手を、ぐにゃつとする。

T くたんというのは、力がある感じ？ない感じ？

C ない感じ。

T だからコンは、どうだったんでしょ。

- C ショックだった。
- C 泣いた。
- T コンになってやってみよう。
- C わあわあと、本当に悲しそうになく。
- T 今、どんな気持ち？
- C ショッカー。
- C 悲しー。(口々に言う。)
- T はい、がんばりましたね。
- T きのうはコンは、どんな気持ちだった？
- C 満足。
- T (心情曲線を描きながら) じゃあ今は？
- C 悲しい。
- T ぴよんぴよん跳んでいる時は？
- C 上。
- T くとんと倒れているのを見たときは？
- C 下、下がってる。
- C えーん、えーん。(と、悲しそうに泣く。)
- T それが、この「ところが」という言葉に関係あるんじゃないか。コンはあんなにうれしくて楽しかったのにこんなにショックなことが起きたんですよという意味なんですね。
- C うん。そうそう。



くとんと



○コンはわあわあ泣きました。

わあわあ
と言うよりしくしくといった感じ



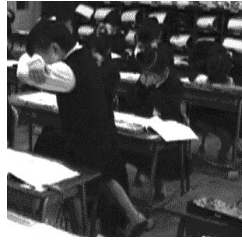
○風船が倒れているのを見つけて驚いている。



○赤い風船は小さく小さくしぼんでくとんとたおれていました。



コンの気持ちの動きを話し合い心情曲線で確認した後の動作化
 ○コンはわあわあ泣きました。



コンになりきって、本当に悲しくなっ
 てわあわあ声をたてて泣いている。

6 「なりきり日記」に表現された子どもたちの読み

① 児童の読み（番号は場面）

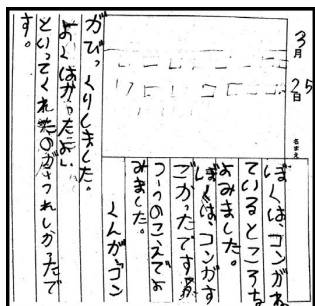
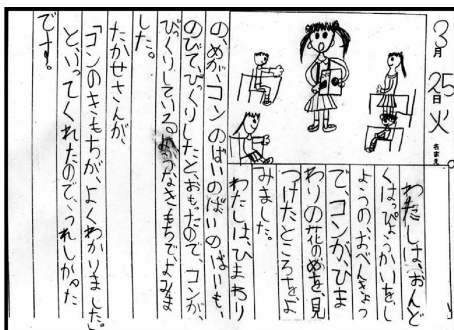
なりきりにきく 学校の子どもたち	ふうせん おやをいばいなかせるま たのしみだな
うれしいきもちで きれいな花がやがてほし とおもいます。 いろ、うなやがてはじ とおもいます。 わたしはいばいさいてほし とおもいました。	ふうせん 子ぎつねのコン たのしいな 花がいばいさいて きもちがいな

②

なりきりにきく ふうせん	一の二 子ぎつねのコン つぎのあ、目をやまして、 「わんたけたのしみ たから とおもて、なまひんはわなが らいてみる。 ヤが、小さくしほんでた のしかなしかな。
わたしは ほくは たのしかったたけ どくつきがねけ たので た。た。た。 小さく小さくしほんで、 くたんとたおれたよ。	ほくは、わたしは くやしめた たので、 「やだ、やだ、や だよう わあわあ泣いたよ。 L。

③

3月14日 なりきりにきく 赤いヤがしほんでわ か、あわあ泣いてから 雨がまじり、日たよ ある日はわりとみ ひくりした。	
か、こたから木きくて金いうだたから びくりした。この花がさいてほし、ま きれいなお日さまの花がいばいに なあれ。すんぽん。	



児童は好きな場面を音読し、互いに感想を交流し書量が多い。M児（幼い）も、自分の工夫した読みが友達に伝わったことに、学習の喜びを感じている。

7 学習後の児童の感想のアンケート

（問1）登場人物になりきって動いてみました。そうしたら、登場人物の、気持ちを想像しやすかったですか。○をつけてそのわけを書いてください。①今までよりよくできた。十八人②まあまあ、できた。九人③あまり、できなかった。三人

（問2）登場人物になって、なりきり日記を書くことは、登場人物の気持ち想像するのに、役立ちましたか。○をつけてそのわけを書いてください。①やくだった。二十三人②まあまあやくだった。五人③あまり、やくだたなかつた。二人

（問3）登場人物になりきったり、なりきり日記をかわいたりして、「はないっぱいになあれ」の学習はたのしかったですか。①たのしかったです。二十二人②まあまあたのしかったです。六人③あまり、たのしくなかつた。二人

問1①②の理由は、「コンや学校の子どもたちや風船になってやってみたら、動きや気持ちがよくわかるようになった」「サラダでげんき（前教材）でありになったときのようになつた」といった感想がみられた。③の理由は、「考えないでやったから」であった。問2①②の理由は、「やってみるだけでもすごいわかつたけど、書いてみたからよくわかつた」「なりきり日記を書いてみると気持ちや様子がよくわかつた」といった感想がみられた。③の理由は、「僕が文をよくよまなかつたから」「自分ができとうにやってみました」であった。問3①②の理由は、「なりきって動いてみて本当に教科書の世界

の中に入ったみたいだったから」「みんながいっぱい意見を言って勉強になったから。」「いっぱい文を読んだりやったりしたから」「いろんな人の話を聞いて私は楽しかったです」といった感想がみられた。^(金2)
③の理由は、「てきとうだったから」であった。

8 考察

(1) 発問の工夫について

自分の考えを持たせるための発問を工夫することによって、子どもたちは最後まで花いっぱいになった原因と結果について考えることができた。身体を通してイメージを図る発問をし、積極的に登場人物に同化して動作化させることで、学習後の児童の感想に見られるように、登場人物の心情が理解しやすかったようだ。

(2) 活動目標の設定について

参観日に、音読発表会を設定したことは、相手意識がはっきりし、学習のゴールに向かって目的を持って意欲的に学習に取り組むことができた。

(3) 音読発表会への手立てについて

「なりきり日記」を、学習後、風船や登場人物に同化しながら書くことよって、自分の読みの解釈を表現することができた。
また、自分の読みの足跡を学習者自身が把握することができた。
教科書の挿絵は少ないので、原作の絵本の場面わけやさし絵は、場

面や人物の様子を捉える際、子どもたちのヒントとなった。

(4) 風船の動作化について

第二次第二場面の授業に見られるように、高い空から地上のコンへ下りていく風船の視点移動、目覚めたコンの目の前に現れた風船への驚きと喜びの心情が、動作化することによって、子どもたちに理解されている。この教材は何度も実践してきたが、これらのことが、本実践で初めて子どもたちに楽しく無理なく理解された実感があった。

(5) 比較について

第二次第二場面は、物語の展開につれ、だんだん実体化していくコンの気持の変化が、最初に現れる。ここでは、「なんだかおぼえていないけれど」コンの夢はどのように見えているのか、「きつと」どんな夢だったのか捉えさせた。ペアで話し合わせた後、意見を交流する中で「美味しい夢だけど、はっきり見えていない」という発言が出た。さらにどのように見えているのか自分の言葉についての様子を絵で表現させることで、子どもたちの「なんだかおぼえていないけれど」というコンの夢の様々なイメージを引き出すことができた。さらに話し合わせる中で、コンは、「きつと」赤い風船の花が野原いっぱい咲いている夢だったのだらうと思っっていることや、そのユーモラスな夢の様子についてのイメージを促すことができた。
第二次第三場面では、「まるくつてふくらんでふわふわゆれる花」と「小さく小さくしぼんでくたんとたおれていました」の比較から、

コンの夢への失望と衝撃を捉えさせた。子どもたちは「くたん」と言う言葉を動作化することを通して、倒れている風船のイメージを促えることができた。さらに、「びよんびよんはねながら」「わあわあなきました」の動作の比較から、コンの感情の落差や子どもらしさを捉えさせた。友達の「わあわあなく」の動作化を、比較し話し合うことで、物語りの文脈からコンの心情を考えるとしくしく泣くのではなく、心の底から悲しみわあわあ泣いたのではないかと、子どもたちの解釈が深まった。

(6) 授業の流れの工夫について

決まった流れをくり返すことによって、子どもたちが学習の仕方を理解し、だんだん積極的に取り組む様子が見られた。動作化を通して、友達と対話と交流しながら学習することで、学習に参加することが困難な子どもたちも楽しく学習することができた。G児のなりきり日記を見ると「コンになったのはうれしき気持ちです。」と身体を通して文の意味を理解している様子が見られる。これは、G児のようにタガログ語を母語としていても、文の読みの解釈が動作化することで視覚的に確認でき、学習者同士の意見の交流が容易になったのではないかと思う。また、自分の思いを十分伝えるため動作化を用いて発表するようになった子どもがいる。日本語教室に通級していて、言葉だけではなかなかうまく発表できなかったのである。種がこぼれる様子を動作しながら発表したところ、みんなの「うん。そうだね。」「よくわかるよ。」という反応から、初めて自分の意見が伝わる実感を得た。この発表以来意欲的に学習に取り組むよう

になった。また、ペアで話し合ったY児とP児がすぐ後ろのG児のペアと話し合い、G児の教科書を指さしながら話しかけて文の読みの確認をする様子が見られた。学習後半になると、互いの意見をよく聞き助け合うので、信頼感のある学級の雰囲気醸成された。

(7) 板書の工夫について

心情曲線や、コン夢の見え方など確認しつつ、それも含めて学校の子どもたちとコンの夢がだんだん重なる様子を「示す」ことで、物語の構造が理解しやすかったようだ。

(8) アンケート結果から

子どもたちの感想を見ると、動作化の楽しさや、自分の読みを視覚的に伝え合える良さや、それをもとに友達と意見を交換しながら解釈が深まる喜びが伝わってくる。また、それを「なりきり日記」に書くことでよりよく理解できたという感想は、書くことで自分の思考を見直し自覚することで思考が深まる実感があつたことが窺える。「役立たなかつた」と答えた子どもたちは、自ら文をよく読んで真剣に学習に取り組まなければ、動作化もなりきり日記も役立たないということに自覚的になったことが分かる。

注

注1 山元隆春（1989）『オツベルと象』における対話構造の検討（p.52）の語りの構造図に学ぶ。

注2 二〇一五年三学期、岩国市立川下小学校一年生にて実践。

引用参考文献

- 叶井晴美（1998）「実践国語研究」全国国語教育実践研究会編
（pp. 12-16）
- 西郷竹彦（1985）「文芸研・教材研究ハンドブック1 松谷みよ
子ハナナイッパイになあれ」西郷竹彦監修輪島文芸教育研究会著
- 川野理夫（1983）「小学校文学作品の授業 読みを深める指導の
実践2 1・2年」
- 須田実（1986）「文学教材の授業選集1巻童話教材①小学1年」
全国国語教育実践研究会編（1988）『文学教材の研究と授業⑦
「たぬきの糸車」「はないっばいになあれ」教材研究と全授業記録』
実践国語研究別冊 No. 84
- 稲本昭治（1989）「文学教材の読み方指導 花いっぱいになあれ
の授業 文学教材の読み方指導7」
- 児童言語研究会編（1991）「国語・読みの授業 小学1年 一読
総合法授業実践集・小学1年」
- 山元隆春（1994）「テキスト解釈の発達に関する試論」論叢国語
教育学 広島大学国語九教育学研究会（pp. 1-9）
- 難波博孝（2007）「文学体験と対話による国語科授業づくり」
（広島大学研究生 岩国市立杭名小学校）